

## 令和7年度 第2回守口市地球温暖化対策実行計画協議会 会議録

会議名称	令和7年度 第2回守口市地球温暖化対策実行計画協議会
開催日時	令和7年11月13日(火) 午後2時30分から
開催場所	守口市役所1階 行政委員会会議室
出席者	守口市地球温暖化対策実行計画協議会委員 12名 (うち1名はオンライン出席) 事務局 6名 支援事業者 3名
会議次第	1 開会 2 挨拶 3 案件 (1) 守口市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定の進捗について (2) 意見交換 4 その他 5 閉会
傍聴者	なし
会議内容	
【1～2】略	
事務局：当初、今年度の協議会は3回を予定していたが、現状委員の方にお示ししている素案について、まだたたき台のため、全4回で実施したい。	
会長：異議ないようなので、今年度は全4回実施する。	
【3 案件】	
(1) 守口市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）策定の進捗について <資料に沿って事務局及び支援事業者から説明>	
(2) 意見交換	
事務局：事前にご質問・ご意見いただいた内容について、回答する。	
【事前質問】公共施設におけるEV充電スタンドの設置件数や料金、利用状況について。	
【回答】市が設置しているEV充電スタンドは、全て普通充電器で、公共施設4か所に設置している。また、利用料金は400円/hで駐車料金とは別に費用が発生する。キャッシュレス決済のみ利用可能。利用状況については、大枝公園が12件、その他の施設は1件ずつ。	

【事前質問】充電時間はどの程度か。

【回答】60 kWh のバッテリー搭載車の場合、フル充電に約 10 時間かかる。

【事前質問】EV 購入の際の市の補助金の有無について。

【回答】市独自の補助制度はないが、今後他の脱炭素施策への補助金も含め、検討していく。

【事前質問】地球温暖化防止月間の市の取組状況について。

【回答】地球温暖化防止月間は R3 から環境月間に統合されており、環境月間については、広報誌や市公式 LINE で啓発を実施している。

【事前質問】府内産木材とはどのようなものか。どこに問い合わせればいいのか。

【回答】府内の森林から生産された木材のこと。府では森林を健全な状態で維持・保全していくことを目的として「おおさか材認証制度」がある。  
問合せ先や詳細については大阪府のホームページを確認していただきたい。

【事前質問】素案 P39, 40 の目標値の設定方法について。

【回答】目標値については、削減対策ケース（P35）に、2050 年度に市域の再エネ導入ポテンシャルを最大限導入した場合の削減率から算出したものを記載しているが、事務局の精査が終わっていないため、次回の協議会にて改めて目標値の案を示させていただきたい。

【事前質問】2040 年と 2050 年の間の計画の空白期間について。

【回答】今回の計画では、2050 年となるとの長期の目標となり、市域の自然的や社会的条件も変わり、結果記載する取組も変わってくると考えられるため、2040 年度までの施策と考えている。今後、国の計画の改定も踏まえ、計画期間についても見直す。

【事前質問】長期目標と短期目標の 2 つがある意味や意図について。

【回答】最終的な目標は 2050 年のカーボンニュートラルであるため、2050 年を長期目標としている。また、国のマニュアルにおいても、計画年度を 2040 年度とした場合には、長期目標を 2050 年度に設定することが望ましいとされている。

【事前質問】素案 P43 の活動指標「太陽光発電システム設置件数」について、別の観点

(設置容量等) はあったのか。

【回答】活動指標については、いったん記載させていただいたが、活動指標の内容、また活動指標を設定するかどうかを含めて検討する。

【事前意見】クーリングシェルターなど聞きなれない言葉について、補足を入れてほしい。

【回答】一般的でない文言は、補足またはコラムで説明する。

【事前意見】素案 P29 の「電気排出係数」について、電気の排出係数は市での取組の結果が及びにくいものであるため、表現に留意してはどうか。

【事前意見】素案 P50 のクーリングシェルターと近い取組にクールスポットがある。クーリングシェルターだけでなく、クールスポットも快適な環境を提供できる場所として設置し、家庭の省エネにつなげてはどうか。

【回答】いただいたご意見をもとに、取組内容を精査させていただく。

【事前質問】民間のクーリングシェルターの設備や施設運営ハードルは高いと考えるが、指定基準はあるか。

【回答】環境省が示す最低限度のラインを満たしていれば指定させていただいている。

事前質問及び意見については以上。

委 員：素案 P37 の太陽光発電について、2040 年に 63.9% と記載されているが、目標値は 73% となっている。この差については、今後検討していくという理解でよいか。

事 務 局：おっしゃる通り。第 3 回の協議会にて事務局で検討したものをお示しさせていただく。

委 員：次回、6 つの取組項目について、それぞれどの程度の削減が見込まれるか示していただきたい。また、推進体制について、大阪府温暖化対策防止センターを追記してほしい。

委 員：アンケート結果は一般に公表されるのか。また、アンケートの要約があれば見やすいと思う。

事 務 局：アンケートも公表予定。要約についても、計画内に記載させていただく。

会長：アンケートについて、他自治体との比較はどうなっているか。

支援事業者：回収率については、市が実施した他のアンケートと比較すると非常に低くはなっているが、近隣の市で実施した同様のアンケート回収率は同程度であり、地域特性であると考える。

事務局：同時期に実施した、廃棄物関係のアンケートは市民 43%、事業者 28%と回答率が高く、この結果からも温暖化への関心の薄さが明らかになったと考えている。

副会長：大東市では環境イベントのようなものを実施し、市民等に啓発を行っており、有効だと考える。  
また、2027 年までに蛍光灯が廃止されるが、中小企業ではまだ対応できていない事業所が多く、行政として LED 化に向け支援して頂きたい。  
太陽光発電については、病院や屋根の広い建物等、設置する余地はあると思うので、行政も事業者と連携しながら自給自足できるような体制をとっていただきたい。

事務局：環境イベントは現在も実施しているが、より多く開催できるよう、引き続き検討していく。また、太陽光を含めた再エネ・省エネ設備に対する補助等が行政に求められていると考えており、今後の施策として検討していく。

委員：P41 基本目標の活動指標について、市域の電気使用量・エネルギー使用量を記載しているが、大規模な工場やマンションの建設など、市が関与できない外的要因で増加するのではないか。施策による削減量の目標値を記載すれば、市の施策による効果が見えるのではないか。

事務局：活動指標についても、次回協議会までに精査させていただく。

委員：2040 年度を目標とする計画なので、ペロブスカイトやアンモニア、合成メタンなど最新技術に関する記載をしてはどうか。また、どの設備がどの程度のエネルギーを使っているか、どの設備を重点的にとりくめば省エネが進むか等、具体的な設備名をだして説明すれば、市民に分かりやすいと思う。

事務局：最新技術については、まだ具体的な設置等は難しいが、記載を検討したい。  
また、家庭用の機器についても、ご意見を参考に記載させていただく。

委員：現在の計画内容であると、アンケート結果を生かしきれていないのではと思う。アンケートからわかる市の特徴などはあるか。また、啓発の際は、具体的なデータを示してもらえると、市民に分かりやすいと思う。

事務局：アンケートにおいて、市民からの要望として多かったのが、機器導入に対する支援であったため、まずは啓発事業と考えているが、その後の施策として、補助事業も検討したい。啓発の際は、その手法についてもご意見を参考にさせて頂く。

委員：「TJ」「MW」など、単位が混載していて分かりにくい。再エネの導入目標について、かなりハードルの高い目標であるので、それが市民に伝わるように記載してはどうか。

事務局：市民の方に伝わりやすいように表現を検討する。また、目標値そのものについても、精査が必要と考えており、再度支援事業者と協議させて頂く。

委員：新築の住宅等は国の補助金等もあり、太陽光が標準で設置されていることが多く、既存の住宅にいかに太陽光を設置してもらうかが大事であるが、やはり現在の目標はかなりハードルが高いと思う。公園の緑化など、違った目線から施策を考えるのもいいのでは。

また、補助金等を実施するにしても、すでに国の補助制度等があるので、市独自で行うのであれば、分かりやすく使いやすい制度ならメリットがあると考える。

事務局：地域の実情に合わせた施策を検討させていただく。

委員：新しいものを取り入れることも大事だが、市民がすぐ取り組めることも大事だと思う。たとえばリユース活動をしている地域もあると聞く。そういう身近にできる活動を記載してほしい。

事務局：身近にできることを記載することは市としても重要と考えている。また、循環型社会の例でいえば、他自治体ではリユースマーケットを実施しているところもあり、そういうイベントも考えていきたい。

委員：3Rについて教えてほしい。

事務局：ごみのリユース、リデュース、リサイクルの3つをまとめて3Rと表現する。守口市は周辺自治体、類似自治体と比較して非常にごみの減量が進んでいる。

委員：計画中のSDGsマークについての必要性について検討していただきたい。また、2030年度に46%削減の目標であるが、基本目標1が●%、目標2が●%と数値で示してもらえると、市民にとって、どの取組が特に重要なのか分か

りやすいと思う。

事務局：支援事業者と協議し、分かりやすく記載させていただく。

会長：削減目標について、数値の設定方法について教えてほしい。

事務局：2050年の目標値をもとに、バックキャスト的に設定した。

委員：再エネ導入の課題としては、購入費用が高いということなので、補助金等を活用していくことになると思うが、効果、投資に見合うような取組、啓発であればPR等して頂きたい。

委員：主婦目線として、エネルギーに関することも勿論大事だが、もっと身近なエコについての記載をしてほしい。

支援事業者：それらの取組についても、計画内に記載する。

委員：電動自転車についての補助は考えているか。

事務局：現状は考えていないが、自転車は最もエコな移動手段であり、今後検討課題の1つとさせて頂く。

副会長：各委員に、最もエコな次世代自動車は何と考えるか、ご意見を聞きたい。

委員：太陽光を利用すれば、CO<sub>2</sub>排出がないEVと考える。

委員：ガソリンを使用しないのでEV。ただし、製造や廃棄の際の問題はあると考える。

委員：電力がすべて太陽光になっていればEVだが、現状そこまでではないため燃料電池車だと考える。

ただし、費用対効果やステーションの関係で、普及は進んでいないが。

委員：私もEVだと考える。しかし、実際にEVに乗っているが、現状では不具合も多い。

委員：難しいが、EV製造等のコストや発電の際に使用している燃料を考えると軽自動車ではないかと考える。

委員：あまり車に乗らないので、思いつかない。

委員：EVではないかと考える。

委員：燃料電池、EV、それぞれに特徴があるので、個人で街乗りであればEV、商用車であれば水素であったり、用途に合わせてゼロエミッションだと考える。

委員：普段公共交通機関しか使用しないので、分からぬ。

副会長：現状でいくと、バッテリーのリサイクル方法や電力の発電を考えると、自身

はHV車か軽自動車と考えている。ご意見ありがとうございます。

委 員：この計画の内容は非常に難しく、一つ一つ具体的に積み上げていかないといけない。本当に2050年に目標を達成できるのか不安がある。

事 務 局：温暖化といっても現状では自分事として捉えない方も多いと思うので、まずは、市民・事業者一人一人が自分事として捉えることができるとう、コラムなどで分かりやすく記載していく。

委 員：運営面について、スクリーン等に映しながらスライドで説明していただければ、より分かりやすく、内容を短時間で吸収できるため、検討してほしい。

事 務 局：第3回から運営方法について検討する。

《委員から大阪府の事業所向け脱炭素セミナーの紹介》

#### 【4 その他】

事 務 局：協議会を第4回まで開催するにあたり、近日中に第3、4回の日程調整をさせていただく。

また、計画に記載するコラムについて、ご協力をお願いしたい。

#### 【5 閉会】 略